令和４年度　松田町立松田小学校　学校だより　第５号

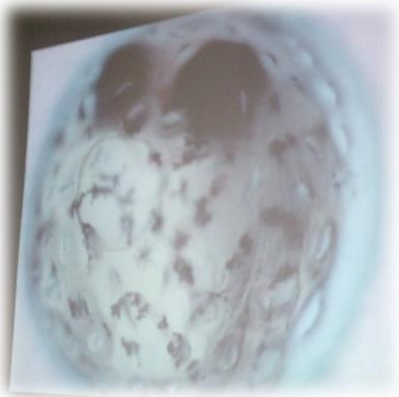
酒匂の清流

令和４年６月15日（水）発行

校長　津田　将美

「あ～！！動いたあ！！！」
「えっ、何？」
「今、卵の中が、動いたよ！！」
「だから、生きているんだって！」

　毎年５年生のメダカの授業をしていただいている、富川孝治先生の「魚のたんじょう」の一コマです。スクリーンには、受精してから５日目のメダカの卵が映し出されています。子どもたちはその卵をじっと見つめ、卵の殻が二重になっていること、周りに毛のようなものが生えていること、心臓が動いていること、血液の流れがわかること、などを発見していきました。そしてわずか 1mmあまりの小さな小さなメダカの卵の中に、確かに命が芽吹いていることを実感します。



　今度は、更にダイナミックにメダカが卵の中を回転しました。
「うわあ、動いたあ！！！」
「えっ、何？」
「また、動いたんだよ！！」
「だから…」
「生きているから！！」

　富川先生とのやり取りも、命を目の前に更に絶妙なものになっていきます。位置が変わり、心臓の動きが更にはっきりわかるようになりました。子どもたちは、食い入るように画面を見つめます。
「私もお母さんのおなか、けってたんだよ。」
そんなつぶやきから、メダカの命と自分自身の命を子どもたちが結び付けて考え出したことが伝わってきます。興味関心が俄然高まってから、いよいよ受精卵の観察です。

　この卵は、富川先生が子どもたち一人ひとりにくださったもので、その日の朝とってきていただいた受精初日のものです。小さなガラスのケースに入っているので、そのまま解剖顕微鏡で観察ができます。子どもたちはいただいた自分の卵の小さな命を熱心にスケッチしながら観察しました。

　小さなあわのようなものがあること、卵によってそのあわの数が違うこと、毛のようなものがはえていること、糸のようなものが出ていること、卵のまくが二重になっていることなど、子どもたちが気づいたことがまとめられていきます。そして、あわのようなものは油球（ゆきゅう）と言って、だんだん少なくなっていき最後はひとつになること、糸や毛のようなものはそれぞれ付着糸、付着毛といって大切な役割があること、卵のまくは受精した瞬間に二重になり、それが命のスタートであることなどを学習していきました。

　自分たちが気づいたことは、ひとつひとつに役割があり、それが命が少しずつ大きくなっていくために大切なものであることを実感できたようです。

　授業が終わって 10 日あまりたち、メダカの孵化が進んでいます。これから子どもたちは、目の前にある小さな命と向き合いながら、様々なことを学んでいきます。

そらまめさんのさやむき

５月２５日（水）に、給食に「そらまめ」が出されました。実はこの「そらまめ」、２年生の子どもたちがさやむきをしてくれたのです。

食育の一環として、栄養教諭がそのような活動の場を用意してくれました。どの子も初めての経験だったようですが、「学校の給食に出される」という意味付けが新鮮だったようで、一生懸命、心を込めてむくことができたようです。

給食の様子を見に行くと、自分たちがむいたそらまめをおいしそうにパクパクと食べる子、感慨深げにじっくりと味わって食べる子、苦手だけど何とか食べることができた子などいろいろでした。でも、どの子も満足げな顔をしていて、このような活動もとても大切なものだと実感しました。

食育は、心の教育です。

コロナ禍で給食は黙食が続きますが、給食という食文化を通して、作ってくれた人や生産者への感謝、命をいただくことの意味、自分自身の健康への気づきなど、子どもたちは大切なことを学んでいきます。

手話の世界へ

６月８日（水）４年生を対象に、手話サークル「さくら会」のみなさまによる手話の授業が、行われました。ここ２年はコロナ禍により実施することができませんでしたが、今年度、生きた学びの場としてお招きすることができて、本当によかったです。

耳の不自由な方が日常的にどのようなことに困っているのかを予想しながら、その予想になかったものについても教えていただきました。

宅配便などが届いたとき、呼び鈴が聞こえないことなどを教えていただくと、

「ああ、そうか。」

「なるほど…。」

などのつぶやきが、自然ともれてきました。

その後、手話による「あいさつ」や「あいうえお」などをご指導いただき、子どもたちはしっかりそれを覚えようと一生懸命になっていました。最後は、覚えたての手話の「ありがとう」でお礼も言うことができました。このような学びを今後も継続しながら、インクルーシブな学校を目指していきます。

お弁当学習の日

「このハンバーグはね、お兄ちゃんとお母さんが作ったんだよ。」

「私は、自分で作ったよ。でも、材料の準備は、お母さんがしてくれたの。」

お弁当学習の日、手づくりのお弁当を前に、子どもたちが教えてくれました。その目はキラキラと輝いていて、このお弁当の瞬間を子どもたちが心待ちにしていたことが伝わってきます。家族と共有した時間が、子どもたちのそのような想いを更に豊かなものにしてくれているようです。

日々の給食と共に、お弁当学習の日も「食」を大切にする心や態度を育んでいくために大切にしていきたいと考えています。おいしそうに、そして満足そうにお弁当を食べる子どもたちの姿から、「食」を大切にする心が着実に育っていることを実感しました。お弁当には、おいしさだけではない大切なものが、たくさんつまっているのです。

ご家庭での愛のこもったあたたかいご協力、本当にありがとうございました。